

試合会場レポート

[試合番号]C3

[開催日]2014/06/22

[会場]ひたちなか市総合運動公園総合体育館

[観客数]1500

[開始時間]13:36

[終了時間]14:50

[試合時間]1:14

[主審]松代 寛

[副審]横須賀 威之

[記録員]鬼ヶ原 慎平

女子：決勝戦

常総学院高等学校

監督：長谷部 勝弘

コーチ：斉藤 篤

2	14	第1セット 【0:18】	25	1
	25	第2セット 【0:23】	18	
	25	第3セット 【0:27】	22	

土浦日本大学高等学校

監督：石崎 吉宏

コーチ：

【 】内はセット時間

戦評

関東大会県予選と同じ組合せになった土浦日本大学高等学校と常総学院高等学校の対戦。土浦日大が7年連続のインターハイ出場なるか、常総学院が昨年度インターハイ決勝の雪辱なるか。

1セット目立ち上がり、常総学院は土浦日大の高さの前に決め手を欠き、土浦日大は田崎のブロックがピシヤリと決まり2-6となり、常総学院はたまたま1回目のタイムアウトを取る。その後も常総学院はミスやネットタッチを繰り返し、なかなか勢いに乗れない。4-10とリードされたところでピンチサーバー押野を送り、リズムを変えようとするが、土浦日大の攻撃に圧され4-11となったところで常総学院は2回目のタイムアウトを取った。中盤以降も土浦日大は秋山のバックアタック、横山の軟攻が次々と決まり着実に加点した。常総学院も得意のコンビで一矢を報いようとするが、土浦日大古谷のブロックに捕まる。終盤も土浦日大伊藤・秋山のサービスエースが炸裂し、結局25-14で一方向的に1セット目を先取した。

2セット目、常総学院は村井の超インナースパイクが決まり先取点を奪う。その後土浦日大はセッター山下とアタッカーのタイミングが突如崩れミスが続き、一時は3-6とこの試合初めてリードを許す展開となった。ここで常総学院は1年生ライト林のスパイクが決まり、10-6とリードを保ったまま中盤を迎えた。しかし土浦日大も、センター田崎の高い速攻で9-11と徐々に追いついてきたところで、常総学院1回目のタイムアウトを取った。しかし土浦日大の高さを止められず、ついに土浦日大が12-12と常総学院を捉えた。あきらめない常総学院はサーブに活路を見だし、関口がサービスエースを決め16-12と再びリードを広げると、たまたま土浦日大がこの試合初めてのタイムアウトを取った。その後も常総学院の丁寧なつなぎに土浦日大の集中力が完全に切れ、13-19と一方向的にリードされたところで土浦日大2回目のタイムアウトを取った。終盤は常総学院村井が頑張り、最後は宮本のスパイクが決まり、25-18と常総学院が2セット目を奪った。

インターハイを懸けた3セット目、立ち上がりは一進一退の攻防が続く両チーム互角の展開が続いた。このセット土浦日大のサーブが常総学院のレセプションを崩し、山下のサービスエースで9-7とリードしたところで常総学院1回目のタイムアウト。その後土浦日大がやや有利に試合を展開し、13-10となってコートチェンジ。決勝戦にふさわしい接戦となった。土浦日大は強烈なサーブとレフト山中のスパイクで徐々に点差を開き、10-15とリードされたところで常総学院が最後のタイムアウト。その後、常総学院林のタッチ攻撃、松本のサービスエースで14-15と追いついてきたところで土浦日大が1回目のタイムアウト。その後も1点を巡る攻防が続いたが、土浦日大にコンビミスが出て、22-22となったところで土浦日大も最後のタイムアウトを取る。なおも常総学院は村井のレフトスパイク、関口のブロックが次々と決まり、最後は村井が渾身のスパイクを土浦日大のコートにたたき込み、常総学院が初優勝を飾った。

昭和63年の男子優勝に続いて、長谷部勝弘監督が女子でも優勝を成し遂げた。